

フリーストール方式酪農経営における経営試算システムの開発							
<p>[要約] フリーストール方式酪農家における実態調査結果等を基に、<u>経営構造</u>、<u>生産技術</u>および<u>経営条件</u>等の違いによる損益計算書および労働時間等が試算できるシステムを、表計算ソフト「<u>ロ-タス123</u>」のワークシート上で開発した。</p>							
畜産研究所・大家畜部・乳牛研究室					連絡先	092-925-5231	
部会名	畜産	専門	経営	対象	家畜類	分類	普及

[背景・ねらい]

酪農経営においては、フリーストール方式の導入により規模拡大を進めるとともに、労働環境を改善しようとする酪農家が増加している。しかし、全国的にもフリーストール方式の事例が少なく、経営計画の策定や経営試算に関する経営技術指針は確立されていない。

そこで、県内のフリーストール方式酪農家の経営調査結果等を基に、労働力に応じた適正規模や所得目標を達成する技術水準を明らかにするとともに、経営構造および生産技術等に応じた収益性および労働時間が試算できるシステムを構築する。

[成果の内容・特徴]

- 1 フリーストール方式酪農家における生産技術の構造、労働時間および収益性の実態調査結果等を基に、表計算ソフト「ロ-タス123」のワークシート上において、経営構造、生産技術および経営条件等の入力値に応じた損益計算書、損益分岐点分析および労働時間等が試算できるシステムを開発した（表1、図1）。
- 2 経産牛頭数や年間産乳量等の生産性に関与する基本設定値を変化させることにより、飼養規模の拡大や泌乳能力の向上等に応じた収益性の変化が試算できる（表1、図1）。
- 3 経産牛頭数、ミルクゲル率の規模および自給飼料生産面積等の労働時間に関与する基本設定値により、年間の総労働時間が試算される。経営内の必要労働人員は、この年間総労働時間を1,800～2,000時間で割った数値となる（表1、図1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 フリーストール方式酪農の導入および経営試算に当たっての資料として活用できる。
- 2 このシステムの活用にあたっては、経産牛200頭程度までを想定している。それ以上の規模においては、飼養管理機械類の既存設定を変更する必要がある。

[具体的データ]

表 1 経営試算システムにおける経営費目等の決定要因および考え方

経営費目等	主な項目	決定要因および考え方
酪農収益	牛乳販売	決定要因 : 経産牛頭数、産乳量、乳価
	子牛販売	決定要因 : 経産牛頭数、分娩間隔、子牛販売単価...
生産費	飼料費	決定要因 : 経産牛頭数、購入飼料単価、自給飼料作面積... 考え方 : 乾物摂取量、求量〔日本飼養標準〕、自給飼料生産量〔酪農指標〕
	労働費	決定要因 : 経産牛頭数、ハ-ラ-型式・規模、賃金単価... 考え方 : 各種作業の労働時間×賃金単価
	減価償却	決定要因 : 経産牛頭数、施設面積、管理機械... 考え方 : 施設機械構成および育成経費および導入経費から試算〔酪農指標〕
諸経費		決定要因 : 出荷手数、諸組合費、固定資産税... 考え方 : 諸組合費は、ハ-ラ-牛検入を含む〔成果情報等〕、諸組合費は、ハ-ラ-牛検入が1/2償還済み時点
労働時間		決定要因 : 経産牛頭数、ハ-ラ-型式・規模... 考え方 : 搾乳時間=搾乳頭数/搾乳能率...〔成果情報等〕、自給飼料生産時間=経産牛頭数×実態平均〔酪農指標〕

注) []内は試算式に採用した考え方の根拠。日本飼養標準は、1994年版。酪農指標は、福岡県酪農経営収支指標(7年12月)。成果情報は、7年度「各種ミルクハ-ラの搾乳作業性」および「フリスト-ル酪農家の技術構造、生産性および収益性」、9年度「フリスト-ル方式の酪農経営における飼養管理労働時間と収益性」

基本設定 (設定値入力)

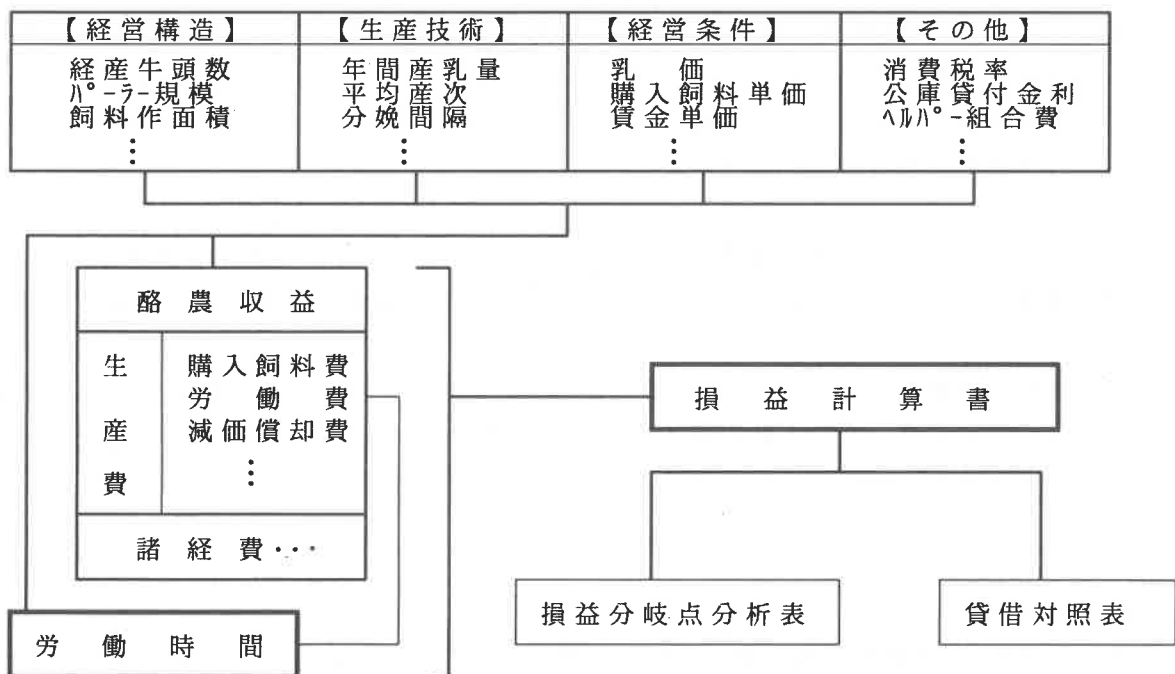


図 1 経営試算システムのフローチャート

[その他]

研究課題名 : 大規模土地利用型酪農の存立条件の解明
 予算区分 : 国庫(地域基幹)
 研究期間 : 平成9年度(平成8~9年)
 研究担当者 : 古賀康弘、磯崎良寛、柿原孝彦、原田美奈子
 発表論文等 : 平成9年度畜産関係試験成績書